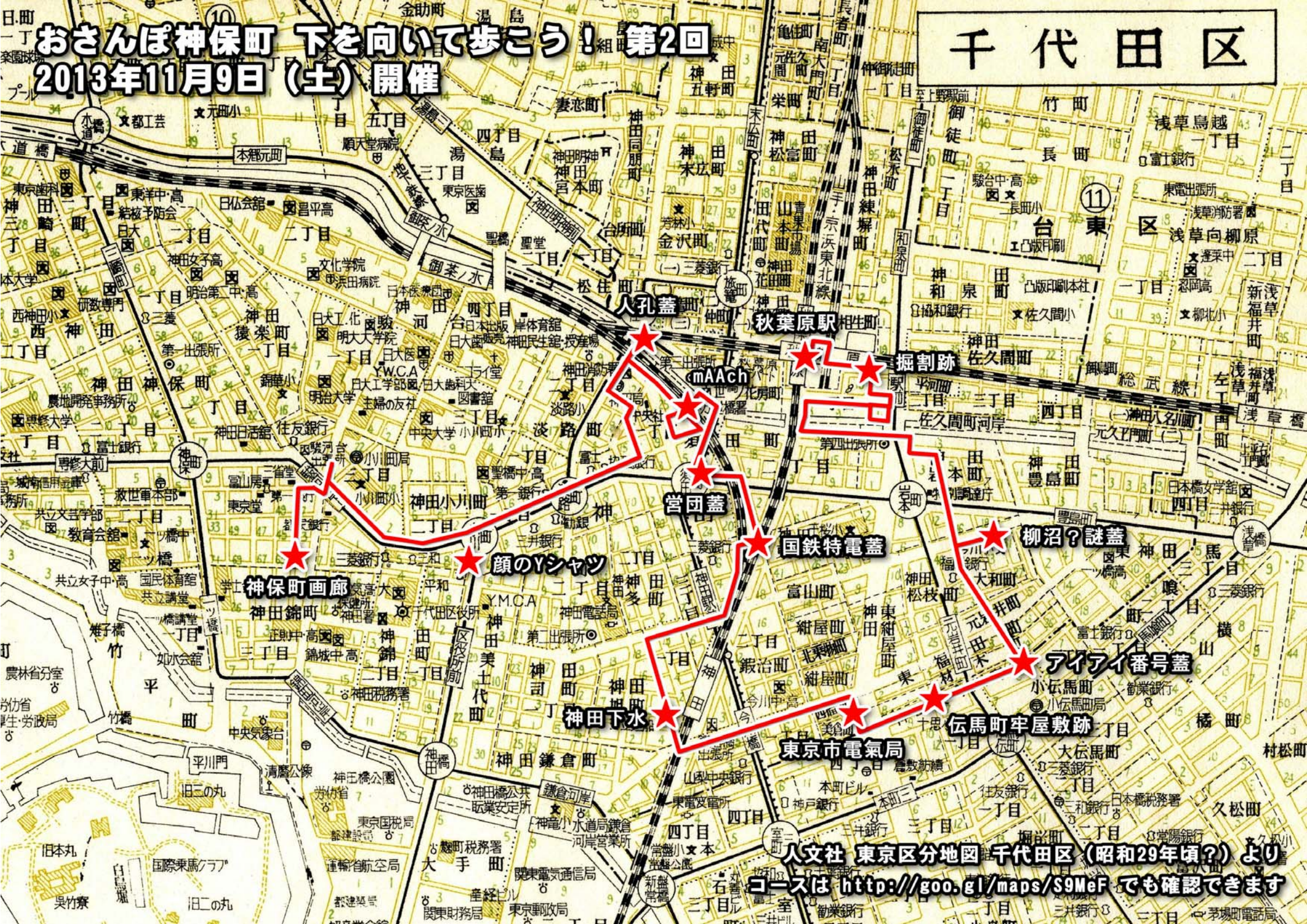


# おさんぽ神保町 下を向いて歩こう！ 第2回

2013年11月9日(土)開催

# 千代田区



人文社 東京区分地図 千代田区 (昭和29年頃?) より  
コースは <http://goo.gl/maps/S9MeF> でも確認できます

# おさんぽ神保町 下を向いて歩こう 第2回

2013年11月9日（土） 開催

## 1. 秋葉原は「あきは」なのか「あきば」なのか

秋葉原、現在では「あきはばら」と呼ばれていますが、昔からこの読み方だったわけではありませんでした。秋葉原という地名は明治2年に発生した火災(暮れの大火)の後、東京府が火災の延焼を防ぐための火除け地とし、空き地を残したことに遡ります。明治天皇がこの地に「鎮火神社」を建立させ、後に鎮火防火の神様である秋葉大権現になぞらえてこの神社が「秋葉神社」と呼ばれるようになり、この火除け地も「秋葉っ原」と呼ばれるようになりました。ちなみに、秋葉神社の本宮は静岡県浜松市の秋葉山山頂にあります。この秋葉神社と火除け地に建立された鎮火神社との間に関係があるのかどうか(鎮火神社が正当な秋葉神社の流れを汲んでいるのかどうか)については、諸説あるようです。(正当ではないというのが定説ですが)

地名の由来はともかく、その読み方に注目します。明治23年11月、この地に秋葉原駅(貨物駅)ができます。読みは「あきはのはら」であったとされています。大正14年には上野―東京間の路線が開通し、秋葉原駅も旅客を扱うようになります。この際に地方出身の鉄道官僚が駅名を「あきはばら」としました。鉄道駅の名は初めから「あきは」だったようですが、当時の作家や俳人(永井荷風や笹川臨風)の文章に、『あきはばら』という読みは田舎流の読み方だといった記述があることから、元々は「あきば」が正しく「あきは」は間違いという説が広く信じられるようになりました。

しかし話は続きます。当時の人たちは秋葉原のことを「あきばはら」「あきばっばら」「あきばがはら」「あきばのはら」などと呼んでいたことがわかっていますが、一方で秋葉神社の読みは「あきは」が正解なので、濁らずに「あきはばら」「あきはがはら」「あきはのはら」と読む人も居たそうです。この時点では「あきは」とも「あきば」とも呼ばれていたこととなります。では、当時「あきはばら」という駅名に対して不満が出たのはなぜでしょうか。それは「あきは」と「あきば」の違いではなく、「はら」と「ばら」の違いに対しての不満だったのではないかという新説が最近出ました。言われてみれば東京の地名に付く「原」の字は、「はら」(原宿、久が原など)や「わら」(吉原、石原など)と読まれることが多いような気がします。例外はかつて存在した荏原(えばら)郡くらいでしょうか。

というわけで、結論としては「あきは」と「あきば」どちらも正解ということになります。結論の割りに話がややこしいですね。

## 2. 柳沼？ 神沼？ 鉄蓋観賞愛好家間では有名な謎蓋

下水の文字を紋章化し、中に市章や町章を入れて下水道のマークとする自治体が相当数あります。東京都下水道局の紋章もこのうちの一つで、これらを「下水構え」と呼ぶ愛好家もいます。岩本町に残る古そうな蓋にも下水構えがありますが、その下水構えに入っている文字、「柳沼」とも読めますし、「神沼」「榊沼」とも読めます。地名では無さそうなので、この蓋を造った会社の名前か屋号、或いは他の意味があるのか、そしてどの程度古い蓋なのか、鉄蓋観賞愛好家の中でも有名な謎蓋の一つです。

## 3. 万世橋駅

万世橋駅は明治45年に開業しました。初代の駅舎は辰野金吾による設計で、現在の東京駅に似た赤レンガ造りの駅舎でした(昭和3年に竣工した東京駅の予行練習だったという話もあります)。大正8年に中央本線が東京駅に接続するまではターミナル駅でした。関東大震災で焼失し、その後簡素な駅舎が再建されましたが、近くに神田駅と秋葉原駅が出来たため、次第に旅客が減ってゆき、昭和18年に休止駅となり現在に至ります。昭和11年には東京駅から鉄道博物館が移転し、万世橋駅というよりは交通博物館として賑わいましたが、その交通博物館も平成18年には閉鎖されています。その後整備され、今年の9月に mAACH ecute として活用されています。